

3 「総合的な学習の時間」をどう取り組むか

既存の取り組みを生かして 多彩な活動を実現する

2003年度から実施される新課程の巨匠の一つが「総合的な学習の時間」だ。「生徒が自ら学び、自ら考える」という新学習指導要領の考え方が凝縮され、新たに設定された時間と言えぬ。

しかし、今までにない、全く新しい時間であることに加え、教科書もなく新学習指導要領には具体的な説明が少ないため、どういつ取り組みをしたらよいか分からない、教師に負担がかかるとではないか、といった声もあり、多くの高校が暗中模索の状態のようだ。新しい授業にどう取り組めばよいのかを、Q&A形式で確認すると共に、既に「総合的な学習の時間」を視野に入れた取り組みを行っている三つの高校を紹介する。

Q 新課程では授業時間が少なくなり、「総合的な学習の時間」に力を入れている余裕はないように思う。また、教科書もなく、担当教師には準備などに負担がかかると思える。効果的かつ効果的なやり方はあるのか？

A ……ベネッセコーポレーションによる「総合的な学習の時間」に向けた先行事例の聞き取り調査でも、当初は教師の負担が大きくなるのでは、という不安が強かったようだ。しかし、この時間は「生徒が自ら課題を発見し、考え、解決する」のがねらいであり、調べたり、勉強する主体は生徒。教師はそのサポート役と考えた方がよいだろう。したがって、「教師がすべてを教え

なくてはならない、教師がすべてを知っていないてはならない」という従来の授業の発想からは抜け出た方がよいと言えそう。教師が知らないことがあってもよい、一緒に学んでいく」という、ある意味で肩の力を抜いた姿勢が必要と思われる。聞き取り調査でも、そう考えたら負担を感じなくなると、という回答が多く寄せられている。

例えば環境問題をテーマにした場合、「環境庁のホームページを見てみたら」という支援の仕方でもよいだろう。地域に住むそのテーマに詳しい人に話を聞きに行かせるという方法もある。教師が全部を背負い込む必要はない、それは現実的ではないと言えそう。 「総合的な学習の時間」では、新し

いことをしなければならぬという思いが、教師に負担感を与えているようだ。だが、従来の高校の特別活動や学校行事、進路指導といった活動の中で「総合的な学習の時間」に類したものは既に実践しているはず。そこにヒントを見つけて、それを膨らませたり、少し視点を変えてみてはどうだろうか。そうやって、初めはやりやすいものから取り組み、生徒や学校の状況に応じて徐々に内容を深めていけばよいだろう。

Q どんな取り組みをしてよいのか分からない。実践例を教えてください。

A ……一つの方法として、学校行事と

せ、最終的に生徒の適性や進路と結び付けられるものならば、テーマの題材は広く多様な分野から集めてもよいのではないだろうか。

Q 小・中学校でも「総合的な学習の時間」が設置されるが、どのような取り組みをすることにいいのか。また、高校の「総合的な学習の時間」は、それとどう関連性を持たせるべきなのか？

A ……小・中学校の研究指定校の事例や、学校の特別活動などの時間枠で行われている事例の定番は「環境」をテーマにしたものだ。地元の川に行っているような生き物があるか、川の汚染状況はどうか、などを調べたり、酸性雨の調査もよく行われている。もう一つのテーマは「地域」。自分が住む地域の歴史、自然、産業、あるいは自分の学校の歴史などを調べたり、その結果をインターネットにホームページを作って載せたりしている所もあるようだ。

高校の「総合的な学習の時間」では、小・中学校時代に体験した学習の幅をもっと少し広げ、進路と結び付けていくことが大切である。小・中学校で「環境」について活動した場合でも、高校では「環境」というテーマをより自分

に引き付けて、将来どんな形でそのテーマにかかわることができるのかという視点を持って取り組ませたい。したがって、例えば環境をNGO（非政府組織）の活動と結び付けて考えさせれば、社会活動に興味があると気が付くかも知れない。また、インターネットなどを使った海外の高校生との情報交換などから、環境を足掛かりに国際的な職業や外国語学などの学問と結び付けてもよい。もちろん、環境に一番興味があるという生徒には、小・中学校で扱った問題をもっと深める方向で取り組みませるとよいだろう。まず、生徒の適性や将来やりたいこととマッチングさせることが必要と言えそう。

Q 「総合的な学習の時間」の内容を考えると、教科とは異なり、点数などの絶対的な評価が難しいのではないか。評価については、どういつ考え方で進めていけばよいのか？

A ……新学習指導要領には「総合的な学習の時間」について、どんな風に評価しなさい、とは書いていない。教育課程審議会の答申の中で「試験の成績などで数値的な成績を付けたり、評定を行うことはふさわしくない」と書かれているだけだ。そのため、「総合的な

学習の時間」では評価はしなくてもよい、という考えが一部にあるようだ。しかし、指導の指針として評価は必要だろう。生徒がどこまで目標を達成したか、それを受けてどういつ活動させていくか、といった指導の目安、今後の指針として、何らかの評価は必要である。また、生徒にとっても、自分がどこまで達成したかの目安として評価は必要になる。何もないと、自分が目標に対してどれだけのことを成し遂げてきたのかわからなくなる危険がある。選抜、選別のための評価はふさわしくないだろうが、指導の指針や目安としての評価は必要だと思われる。

では、実際にそれをどういつ形の評価にするかとなると、必ずしも評価法が確立されていないのが現状のようだ。ただ、教課審の答申の中に「生徒のよい点や学習に対する意欲や態度、進捗の状況などを適切に評価する」とあり、生徒のよさを積極的に見てやる評価が一つの形として考えられる。

また、アメリカやイギリスでよく採用されている評価法としてポートフォリオ評価がある。研究成果をファイリングし、それを基に個々の生徒の成長をあらかじめ決められた観点ごとに見て評価する方法だ。評価の仕方の一つとして参考になるだろう。

また、大学のゼミ形式のように、教師がそれぞれ講座を開設して、生徒はその中から興味のあるものを選んで受講する方法もある。講座のテーマはその教師の興味と絡めて設定してもよいのではないだろうか。家庭科の教師が、昔から『源氏物語』に興味があれば、「源氏物語と当時の衣装」という講座を開いてもよい。生徒に考え、学ば

実践例 熊本県立鹿本高校

明治29年創立。普通科1097名。
'99年度入試は四年制大現役合格者284名

生徒に自己の在り方、 生き方から考えさせる 入念なプログラムを用意

自由な発想の中から 興味を引き出す

鹿本高校は、文部省から研究開発学校の指定を受け、既に今年度の1年生から「総合的な学習の時間」の取り組みを開始している学校の一つだ。

4月の1時間目はガイダンス。2時間目はAppleプログラムと名付け、リンゴ(クラスによってはサンマイモ水、卵など)1個から何を思い付くか自由に連想して答えさせた。ゴリラや白雪姫などいろいろの答えが出てきたが、それを通して一つの物もいろいろな見方ができることに気付かせた。3時間目は前の時間に出てきたイメージからさらに疑問を引き出し、4~6時間目はその疑問をインターネットなどを使って調べる作業に移った。この際

全クラス一斉で使つには数に限りのあるパソコンを効率的に使用するため、クラスごとに時間を設定して実施するようにした。

2学期は九つのテーマを設定、生徒に好きなテーマを選ばせ、クラスを解体してテーマごとに九つのグループを作った。

「1学期に一つのリンゴから始めてイメージを広げるだけ広げさせて、自由に考える重要性、楽しさを分からせた上で、2学期にやりたいテーマを選ばせる方法を探りました」と西泰弘先生(総合的な学習の時間)の研究開発委員会委員長は語る。このときはクラスを解体して学年一斉の授業とした。つまり「総合的な学習の時間」の内容に合わせて、2種類の時間割を作成、運用しているのだ。

「2学期にクラスを解体すると言つと、生徒は嫌がりましたね。ようやくクラスのメンバーと仲良くなったのに、また知らない人とグループを作るのは嫌だ。実はそこがねらいなんです。今の生徒は小さな人間関係の中で自足する傾向があるので、それを一旦壊して人間関係を築く力を付けさせよう。知らない生徒たちの中で自分の役割を考えて行動し、またその中で堂々と自分の考えを述べる訓練になるのでは、と思います」

前述の九つのテーマとは「環境」「健康と福祉」「国際交流」「経済・産業」「民俗」「建造物」「方言」「風土」「芸術」。また、共通のキーワードは「郷土」で、いずれも郷土とのかかわりの中で研究を行う。担当教師は、あまり得意ではないテーマを積極的に受け持つ

と思いましたが、
担当する教師は、当初は戸惑いやストレスもあったが、少しずつ「こんな感じでもいいのかな」と指導のスタイルを飲み込みつつあるという。現在「総合的な学習の時間」の小委員会を週に1回開き、さらに学年でも週に1回の打ち合わせを行い、授業方法や課題などを話し合う場としている。

『総合的な学習の時間』のねらいは生徒が自ら学び、自ら考えること。教師は生徒に教えるのではなく、生徒と一緒に学び、一緒に作り上げていきます」

西先生はすべてのクラスの授業に参加している。各担当教師とのチーム・ティーチングの採用は、生徒へのフォロを充実させるだけでなく、各クラスの取り組みを西先生が媒介して、すべての教師が共有化するためでもある。そして3学期には、2学期で学び考えたものを発信する作業として研究発表を行う。

「総合的な学習の時間」に対する生徒の反応は上々だ。生徒に取り組みの感想を聞くと、「楽しい」「この時間が来るのが楽しみです」といった言葉が返ってくるそうだ。

担当する教師は、当初は戸惑いやストレスもあったが、少しずつ「こんな感じでもいいのかな」と指導のスタイルを飲み込みつつあるという。現在「総合的な学習の時間」の小委員会を週に1回開き、さらに学年でも週に1回の打ち合わせを行い、授業方法や課題などを話し合う場としている。

生き方を考える 未来型進路学習

そもそも鹿本高校では、「総合的な学習の時間」をどう捉え、どこに目的を置いているのか。基本は「生きる力を育む」として「知の総合化」にあると言つ。そのための指導の流れとして

- ・1年次「方法知(学習の仕方を知る)」
- ・2年次「内容知(興味・関心に基づいて、個人レベルのテーマ学習を行い、学習の内容を知る)」
- ・3年次「自己知(1、2年次の取り組みを踏まえ、自分史を作り、在り方、将来の生き方を考える)」

と位置付けている。西先生はこれを「未来型の進路学習」と呼ぶ。

「従来の進路学習は、文理コースの選択や大学の学部・学科研究などに比重が置かれていました。しかし、実際には生徒はそれ以前の段階、自分の興味・関心がどこにあつて、どう生きて



鹿本高校、総合的な学習の時間の研究開発委員会委員長 西泰弘
1学年副主任 生物担当
『総合的な学習の時間』を通して生徒はもともと我々の教員も変わるので、はなごころが、

いくかという段階をクリアしていないんです。ですから、土台である『自分の在り方生き方』を考えさせることに重点を置く必要があります。未来型とはそこを重視する進路学習です」

例えば、九つのテーマから「建造物」を選び、郷土の古墳について研究するとしよう(この地域は全国的にも稀な装飾古墳で有名)。

「考古学的な研究だけでなく、そこから生き方は模索できません。それで、例えば『古墳の大きさや測つてみよう』を軸にして、測量的な技術を使つてどのくらいの土が盛られているか、その土を運ぶのにどのくらいの日数が必要か、現代の貨幣価値で日当はどのくらいかなどを探ります。すると古墳をテーマにしたがらも、僕は経済の勉強が面白い」とか、私は歴史にワクワクする」とか、自分の興味・関心が体験的に見つかるのではないか。そういうプログラムとして考えています」

2年次では、1年次で探つた興味・関心を基に、生徒がそれぞれ自由にテーマを設定し、個人レベルで課題研究的な学習を行う予定だ。基本は個人研究だが、1学期の初めにそのテーマが「総合的な学習の時間」にふさわしいかをグループ内で議論したり、似たテーマを設定した生徒が集まって一緒に研

「総合的な学習の時間」指導計画案(1年次1学期)

項目	指導内容	学習形態・留意事項	時間
「調査方法」を学ぶ	オリエンテーション1	学年一斉(講演会)	1
	オリエンテーション2	クラス単位・年間全体計画の提示	1
2学期から取り組むテーマを提示・決定。グループを編成	Appleプログラム 課題・問題の発見 研究の手順について 調査の手順<1> 調査の手順<2> 調査の手順<3> データ処理 レポートの書き方 ミニレポート作成と発表	クラス単位 班ごとに1個のリンゴを配り、そのリンゴを巡って生徒たちがどのような課題を発見し、それをどうすれば解決できるのかを学習する。 具体的には図書館での文献検索の方法やインターネット上での検索の方法等を体験する。 また、今後学校外に出て学習することを考えて、アポイントメントの取り方やその意義、依頼文の書き方など社会人としてのマナーを学習する。 取材の仕方、メモの取り方も適宜指導を深めていく。 まとめとして情報処理に不可欠な表計算ソフトや文書作成ソフト等の操作を体験し、ミニレポートを作成する。今後、レポートはパソコンで作成し、校内のみに公開されたホームページに発表し、いつでも閲覧可能な状態にしておく。	8
		九つの領域から、自分の興味・関心のあるものを選び、同じ分野を選択した生徒たちで班を作る。班は仲間作りも重要な課題である。班ごとに研究テーマを設定し、クラスでテーマ設定の発表を行う。	2

「成功へのエチュード」は大学の学部・学科で研究する内容で、かつ生徒たちが高校1年生で研究可能な分野を設定する。研究の内容が偏らないように、高校での教科の枠組みをあえて外した分野分けを心掛けた。3年生になると「自分史」を作るときには、このとき選んだテーマが、各自の原体験とどのような関連があるかについての考察も行わせる。生徒の興味・関心と進路との関連を押さえる。

究したりと、グループ学習も取り入れる。後半は1年次同様、研究成果の発表を行う。3年次の自分史作成では、これまでの人生とこれからの人生を、1、2年次で学んだ研究と結び付けて考えながら自分史を作る。

「1年生のとき、なぜ九つの中からそのテーマを選んだのか。2年生のとき、なぜ個人テーマとしてそれを選んだのか。それは例えば中学生のときの体験と関係があるかも知れない。自分のこれまでの人生や1、2年次での研究を振り返って将来はこう生きていきたい、といったことをまとめさせます。将来のことなど、1年生のときはほんやりとしか考えていなかったのに、2

実践例 兵庫県立御影高校

身近な物を題材に、授業内容を工夫しながら科学的見方を教える

昭和16年設立。99年度3月卒業生総数2778名
99年度入試の国公立大合格者数108名
関関同立甲の合格者数は延べ305名

理科嫌いの生徒にも卒業後、役立つ授業を

御影高校では、98年度から3年次文系コース（私立大文系受験型）の選択科目として「環境科学」を開設している。身近な物を題材に、社会的な問題や、地歴、家庭科など多角的な視野の導入、講義だけに終わらせない授業形態など、「総合的な学習の時間」の取り組みに向けて、様々な示唆を与える授業内容になっている。

担当する安岡久志先生は開講の経緯をこう語る。

「97年度に本校に赴任し、選択科目を担当する機会が与えられました。科学を体系的に教えることはもちろん大事ですが、講義対象である文系生徒、

しかもどちらかと言つて理科嫌いの生徒が社会人になったとき、果たして従来の講義が役に立つのか疑問でした。身近な物を題材にして、科学的な物の見方や考え方、科学的素養を身に付けさせることも必要なのではと考え、環境をテーマに講義を始めたのです。それが翌98年度から『環境科学』という名称になりました」

安岡先生は前任校で環境問題の授業を行っており、その経験と知識を活用できる利点もあつた。講義は前期と後期でテーマを変え、今年度の前期は前年度に引き続いて「エネルギーと環境」を選んだ。

「エネルギーをテーマにすると、どうしても原子力の問題にぶつかります。原子力と言つと、怖い、危ないというイメージしか生徒は持っていません。

域住民など五つの立場を設定して生徒を振り分け、それぞれの立場から議論を展開させた。

以上のような試みは、教師から的一方通行に終わらせず、生徒からのフィードバックを重視している点で共通している。生徒の主体性、考える力を養うと共に、教師も生徒の状況を把握して、適切な指導ができるのだ。

「環境科学」の評価はテストの結果だけでなく、生徒の取り組みの姿勢をレポートなどの提出物、スクラップブックの出来などを総合して行っている。「テストも通常の教科とは違って、自分の頭で考えているかを試すためにある主張を読んでそれに対して反対の立場で意見を書かせる、などの設問を置いています。知識量を求めるものではないので、試験の際は授業のプリントなど資料の持ち込みも可です」

授業に対する生徒の反応はどうか。「受験と関係ない科目、まして理科嫌いの生徒たちですから、最初は真剣に取り組むか不安でした。しかし、今の生徒は何か作業をさせると、一生懸命やるんです。生徒にとつても一斉授業と違って、新鮮、意外という面があつたんでしょう。ディベートもあまり発言しないのでは、と心配していましたが、よく考え、よく意見を出してく

生徒が自分で考える仕掛けを織り込む

授業形式にも工夫が施されている。授業の中で教師による講義は多くても3割程度にし、実験やビデオ鑑賞、関西電力への見学などを盛り込んだ。体験を取り入れることで生徒の興味・関心を引き出す、生徒主体の授業にする、多角的な視野から取り組ませる、という三つのねらいがある。

ビデオ鑑賞に当たっては、キーワードを書き込ませる穴埋め式プリントを配り、ビデオを見ながらプリントを埋めさせて、漫然とビデオを見ることがないように工夫もしている。

考える力を付けさせるために、授業で分かつたことなどについて適宜レポートを書かせたり、情報収集能力を養うために新聞記事などのスクラップブ

ックのホームページからも収集できます。資料を集めるのは意外と簡単でした。むしろ、集めた資料をどう料理するかの方が大変でした。私は、科学の視点、科学技術の視点、社会に生きる人間としての視点、の三つに分けて整理し、教材作りをしました」

99年度「環境科学」授業内容(前期)	
4月～9月 エネルギーと環境	
1. オリエンテーション	1時間
2. エネルギーの需給の傾向と、そのバランス	3時間
・(ビデオ鑑賞)	
・電力の供給源、発電の仕組み	
・(ビデオ鑑賞)	
・エネルギーに関する自然科学的基礎知識	
3. 地球の温暖化と、気候変動枠組み条約	2時間
・地球の温暖化とは?	
・省エネルギーの促進	
・環境家計簿で二酸化炭素排出量を調べよう(作業)	
・コンセプトマップの作成(作業)	
4. 新エネルギー	3時間
・コンセプトマップの作成(作業)	
・新エネルギーとは?	
・燃料電池、太陽光発電など(演示)	
・「水の電気分解」「燃料電池」(実験)	
・新エネルギーの今後の見通し	
5. 放射線と原子力発電	5時間
・コンセプトマップの作成(作業)	
・原子力の構造	
・水力・火力発電とその原理	
・原子力発電とは?(ビデオ鑑賞・講義)	
以上で2時間	
・放射線と放射能とは?(ビデオ鑑賞・講義)	
・暮らしの中の放射線(講義・演示)	
以上で2時間	
・放射線についての実験	
・放射線の人体影響について(ビデオ鑑賞・講義・作業)	
・原子燃料サイクルと放射性廃棄物(ビデオ鑑賞・講義)	
・プルトニウムと高速増殖炉(講義・ビデオ鑑賞・演示)	
・プルスールとMOX燃料	
・さあ、もう一度原子力について考えよう(ビデオ鑑賞・作業)	
・コンセプトマップの作成(作業)	
以上で2時間	
6. パネル・ディベート	3時間
・原子炉解体は必要か(発表)	
6月には関西電力の見学も実施。	

れます。理科が苦手な手のかかる生徒の方が、作業やディベートをさせると他の生徒よりも立派にやっています。とさえ思いました。実際にディベートをしてみて、当初の心配は杞憂でした。安岡先生の試みをバックアップしてきた、進路指導部長の梅田省一先生は「環境科学」の授業をこう評価する。

『総合的な学習の時間』では、生徒が受け身ではなく、自ら問題を発見して解決法を考えたり、自分で調べてまとめたり、発表することが重要です。ですから、生徒に自発的な意思表出をさせる工夫が必要です。また、『総合的な学習の時間』は教科書にない、新しいことを教えますればよいという授業ではありません。安岡先生の授業はその二つの意味からも評価できます」

梅田先生は、「総合的な学習の時間」について、「見識を広める、生き方指導的な場にしたい」と言つた。そこで08年

度からは「環境科学」の他に進路学習や地域の産業・歴史、社会福祉に関する学習などの追加も考えられると語る。

「今の生徒は、大学や職業など進路に関することをよく知りません。高校卒業後、自分がどうなりたいかもあまり考えていない。入試制度を教えることを含めて、進路学習が本校の『総合的な学習の時間』に加わってくる可能性は高いでしょう」(梅田先生)

地域の産業・歴史については、酒造りの伝統を受け継ぐ灘五郷にあることを意識し、その歴史や化学的切り口からの酒造り、さらに江戸や明治にかけての酒と経済、海運と商業の発展についての学習が考えられると言つた。

「新課程で授業時間数が減る中、カリキュラム全体に負担をかけず、『総合的な学習の時間』を多くの教師が最も恐れている、ママコト遊びに終わらせないようにしたいです」(梅田先生)



御影高校進路指導部長
梅田省一
化学担当、同校社6年目
「入試に直結する科目だけを重視するのではなく、人間性を養うためのバランス感覚が大切だ。」



御影高校教務部長
安岡久志
環境科学、化学担当、同校社12年目、「文部省は新課程で理を打ち出した以上、必ずしも環境科学の整備にも尽力してほしい。」

実践例 宮城県宮城野高校 生徒が自ら考え、 調べる研究の場を 入口と出口で展開する

平成7年創立。普通科481名、総合学科248名、美術科122名。99年度の卒業生は、79名が国立大へ、184名が四年制私立大へ進学。

「産業社会と人間」を 普通科を対象に実施

創立5年目の宮城野高校は、選択制の拡大や履修方法の弾力化などを特色とし、宮城県の高校教育改革のパイロット・スクールとして期待されている単位制高校だ。同校では、総合学科の生徒に対しては必修の「産業社会と人間」を通して生徒の進路観の醸成を図っていたが、'98年度からは普通科においても自己理解と進路選択の意識付けを目的とした「進路設計」を1年次に実施することになった。

「授業は前期集中で週2時間の1単位。2時間連続の授業なので、生徒が考える時間も十分に取ることができま

す。単位数は『産業社会と人間』の半分なので、その分取り組みはコンパクトな内容になりますが、基本的には総合学科で行ってきたものと同じです」

「進路設計」主任・稲継昌毅先生
「進路設計」の授業内容は、「自分を
知る」「将来を考える（職業を知る）
」「学問を知る」「上級学校を知る」「私の
ライフプラン」という五つのステップ
に大別される。つまり、生徒が自己の
在り方、生き方、進路について考察す
るといって、新課程での「総合的な学習
の時間」の一つの取り組みとして見る
ことができる。

現在行われている同校の「進路設計」
の特徴は、生徒自身による研究・発表
の徹底と、授業時間外に行われる進路
講演会などのリンクである。

「例えば、職業研究では単なる憧れ
にとどまらず、実際に働く人だから感

年間継続させる可能性もあります。そ
うすれば職場訪問や大学訪問などの校
外活動を盛り込んだり、ディベートな
どの表現力育成の取り組みに、総合学
科の『産業社会と人間』と同じくらい
時間をかけられるでしょうね」（稲継先
生）

3年次の自由研究で 進路意欲を強固に

「総合的な学習の時間」につながる
取り組みとしては、「進路設計」の他に
「課題研究」も挙げられる。総合学科の
3年次に通年で週2時間実施される授
業で、生徒が興味を持ったテーマにつ
いて調査、実験、研究し、10月までに
論文などにまとめるというものだ。

「2年次の1月にガイダンスを実施
し、研究テーマ例を提示後、生徒に大
まかな研究テーマを提出させます。そ
のテーマを見ながら各教科から担当教
師を選出、今年度は16名の教師が平均5
名ずつの生徒を受け持つことになりま
した」（「課題研究」主任・若山英夫先
生）

生徒の研究テーマはまさに多種多様
「多面体の体積を測る」「宮城県の文化
財調査」など比較的教科の枠に収まる
ものもあれば、「パウハウス」「幼児教

育」など、専門的に指導できる教師が
いないようなテーマも少なくない。

「テーマを決めるに当たって、もつ
と絞った方がよい」「研究方法はこうし
た方がよいのでは？」とアドバイスは
しますが、基本的には生徒の自由です。
障害児教育の現状をテーマに選んだ生
徒がいましたが、こうなると我々にも
分かりませんよね。養護学校に務めた
ことがある美術の教師がいましたので
担当になってもらい、さらにその生徒
を連れて養護学校に見学に行きました。
しかし私たちにも分からないものはあ
りますよね。だから、先生、もっと勉
強して！」と言われたこともありまし
た（笑）。でも、私たちも一緒に勉強し
ていけばいいと思っています」（若山先
生）

1年次の「産業社会と人間」を通し
て学問や社会問題に目が向くようにな
っているのだらう。生徒たちは積極的
に研究に取り組むと言った。

「生徒にはその授業時間内に自分が
どんなことに取り組んだかを課題研究
ノートに書かせて担当教師に提出させ、
教師はそこで生徒の状況を把握します。
しかし、生徒は授業時間外にも教師の
下を訪れて、いろいろ相談しています」
（若山先生）
しかし、3年次の秋までこのようにな

「そして、今年度は法心理学や心理学、
工学など、20の学問分野について、大
学教授や本校の教師が講師となって講
演会を実施、研究の面白さなどを生徒
に話しました。職業研究と同様に、生
徒は自分の力でそれぞれの学問につ
いて調べていますので、この講演会は生
徒にとって一つの資料にすぎません。
生徒はこの他いろいろな情報を独自に
収集し、6月にはその成果を各クラス
で発表することになります」（稲継先
生）

低学年次の早期に 進路を考える土壌を

この後、2、3年次での科目選択を
視野に入れた入試研究も含めて大学研
究を行い、さらに環境問題や高齢化社
会など様々な社会問題と自己とのかか
わりを論じるレポート「私のライフプ
ラン」の作成をして、「進路設計」は1
年次の前期で終了する。自己理解から
大学研究までを入学後約半年で終えて
しまつのだ。

「取り組みとしては確かに早いと思
います。しかし、生徒にはこれで進路
を完全に決めてしまつことは求めてい
ません。1年生のうちから進路につ

項目例	評価の観点例
「学問を知る」資料作成 及び発表（班別作業）	発表は内容を自分でよく把握し、分 かりやすく伝えていたか
「学問を知る」まとめの レポート	発表の問題点とその解決策について 深く掘り下げているか
「私のライフプラン」作 文	自分に対する認識や社会に対する認 識が十分か

「課題研究」	評価の観点例
課題研究ノートと中間発表を意欲、関心、態度などの観点から 評価（50点満点）。これに毎学期提出される課題研究報告書と小 論文、作品などを構想力、理解力、表現力などの観点から評価 （50点満点）した点数を加え、評価点とする。各分野の平均点が 70点になるように配慮。	志望学部の研究内容に合わせたテ ーマを選んでいる生徒が多いんです。 だから後期試験などの小論文対策の意 味も出てくる。実際、研究テーマとつ ながりのある学部に進んでいる生徒が 多いんです」（若山先生）

取り組みを続けることで、大学入試な
どに影響はないのだろうか？
「志望学部の研究内容に合わせたテ
ーマを選んでいる生徒が多いんです。
だから後期試験などの小論文対策の意
味も出てくる。実際、研究テーマとつ
ながりのある学部に進んでいる生徒が
多いんです」（若山先生）
1年次の「産業社会と人間」「進路設
計」を進路指導の導入と位置付けるな
ら、3年次の「課題研究」は各自のテ
ーマに自由に取り組む中で自己実現の
喜びを実際に味わい、高校以降の目標
への意欲をさらに強固にする進路指導
の集大成の場として、機能していると
言えるのだらう。



宮城野高校総合学科主任
若山英夫
「課題研究」主任、
英語担当、「総合的な学習
の時間」を生徒が自分の好
きなテーマを見て、教室内
で自由に活動している。



宮城野高校進路指導部
稲継昌毅
「進路設計」主任、
理科担当、「実社会の課題
」に立ち向かっていく力を
「総合的な学習の時間」で
生徒自身に付けさせたい。